

## ノーベル賞受賞会員

- 2025年受賞**  
**化学賞**  
北川 進  
受賞理由: 多孔性金属錯体の開発  
2009年 日本化学会賞受賞
- 2019年受賞**  
**化学賞**  
吉野 彰  
受賞理由: リチウムイオン電池の開発  
1999年 化学技術賞受賞
- 2015年受賞**  
**生理学・医学賞**  
大村 智  
受賞理由: 線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見
- 2014年受賞**  
**物理学賞**  
天野 浩  
受賞理由: 高輝度青色発光ダイオードの発明
- 2014年受賞**  
**物理学賞**  
赤崎 勇  
受賞理由: 高輝度青色発光ダイオードの発明
- 2010年受賞**  
**化学賞**  
根岸英一  
受賞理由: 有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング  
1997年 日本化学会賞受賞

- 2010年受賞**  
**化学賞**  
鈴木 章  
受賞理由: 有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング  
1989年 日本化学会賞受賞
- 2008年受賞**  
**化学賞**  
下村 脩  
受賞理由: 緑色蛍光タンパク質の発見とその応用
- 2002年受賞**  
**化学賞**  
田中耕一  
受賞理由: 生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発
- 2001年受賞**  
**化学賞**  
野依良治 (日本化学会 元会長)  
受賞理由: 不斉触媒による水素化反応の研究  
1985年 日本化学会賞受賞
- 2000年受賞**  
**化学賞**  
白川英樹  
受賞理由: 導電性高分子の発見と開発
- 1981年受賞**  
**化学賞**  
福井謙一 (日本化学会 元会長)  
受賞理由: 化学反応過程の理論的研究



# CSJ Annual Report 2026

日本化学会アニュアルレポート

ダイジェスト版

日本化学会は2028年に創立150周年を迎えます。

### 沿革

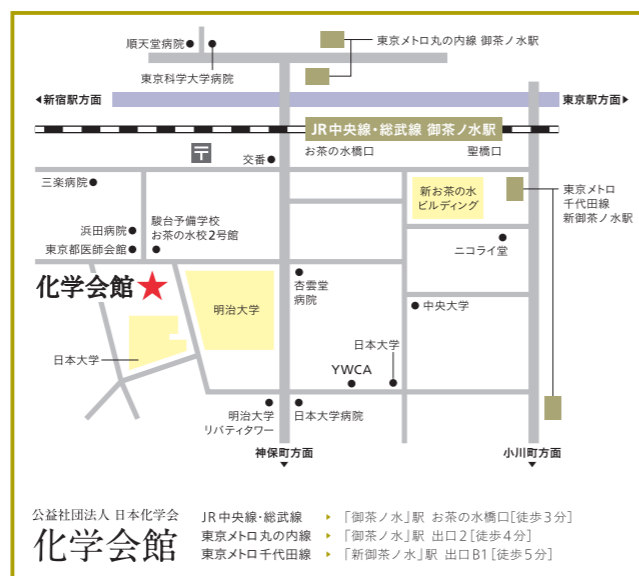
- 1878年 化学会創立, 翌年, 東京化学会と改称
- 1921年 東京化学会が日本化学会と改称
- 1948年 日本化学会と工業化学会が合併
- 1978年 創立100周年記念
- 1991年 化学会館竣工
- 2011年 公益社団法人に移行

## 化学会概要

会長: 森川宏平 (レゾナック)

会員数: 約2万3000人の会員を擁し, 国内自然科学系の学会としては最大規模を誇る。法人正会員は395法人

アニュアルレポート本編はこちらから▶



日本化学会は, 化学を中心とする多様な領域の研究者・技術者・教育者・学生が研究成果を発表し, 交流する日本を代表する化学者コミュニティです。その目的は, 産業の振興・知識の普及, 並びにそれを担う人材の育成を図り, もって社会の発展に寄与することにあります。本資料は2025年度の活動報告をダイジェストとしてご紹介するものです。



## 化学だいすきクラブ

小・中学生を対象に、情報や体験機会の提供を通じて子供たちが化学を好きになり、将来化学の分野で活躍する人材に育ててほしいという想いから活動を続けています。本事業は多くの方からのご支援の下、寄付金で運営されています。

2025年度開催実績

メンバー: 7,076名 体験型イベント: 4件  
ニュースレター発行: 3回 参加人数: 約100名



## 化学グランプリ・国際化学オリンピック

国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として「化学グランプリ」が開催され、現在では約2,500名の中高生が化学の力を競い合っています。また、本大会を含めて複数回の試験で選抜された日本代表生徒4名が毎年7月に10日間の予定で開催される国際化学オリンピックに参加しています。

2025年度開催実績

- 化学グランプリ
  - [一次選考] 参加者数: 2,476名(マークシート式)
  - [二次選考] 参加者数: 77名(実験試験)
- 第57回国際化学オリンピックサウジアラビア大会
  - 代表生徒4名参加
  - (金メダル1 銀メダル3 90ヵ国・地域・他から354名参加)



## キャリア支援

「学生」「企業」「大学」をつなぐための施策を行っています。進学、就職についてイメージし、相談できる場を提供しています。

- 企業現場見学会(学生-企業)
- 就職交流会(大学-企業)
- キャリア座談会(学生-大学-企業)
- 研究講演会(学生-企業)

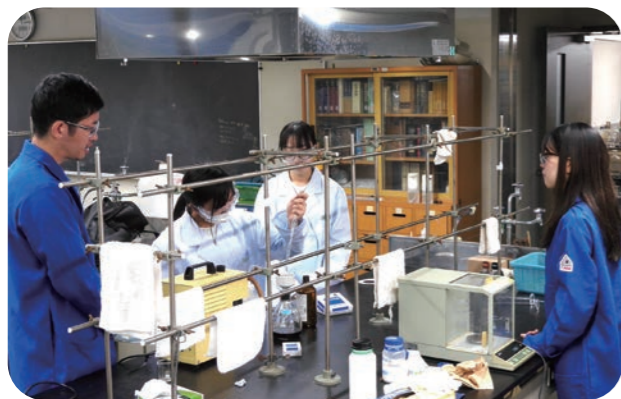


## 春季年会・CSJ化学フェスタ

春と秋に全国規模の学術集会を開催しています。日本はもちろんのこと、世界各地から化学という共通点をもった様々な分野の研究者が一堂に会する数少ない機会です。その他にも、各支部で主催する「支部大会」や、部会主催の「討論会」も活発に開催されています。

- 第105春季年会
  - 参加者数: 6,294名
  - 講演件数: 3,958件
  - 会場: 関西大学千里山キャンパス(大阪府)
- 第15回CSJ化学フェスタ
  - 参加者数: 2,690名
  - 講演件数: 1,031件
  - 会場: タワーホール船堀(東京都)

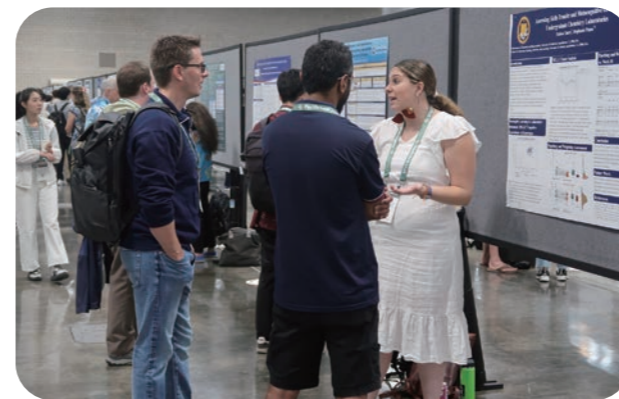
## 日本化学会は会員の皆様をシームレスに支援いたします。



## 講演会・講習会・実験教室の開催

小学生から大人まで、初心者からプロフェッショナルまで各層に満足いただける内容を提供しています。2025年度は全国各地で300回近く開催され、その参加者は約18,000名にのぼります。

- 小中学生向けの実験教室
- 高校生・高専生向けの研究室見学
- 一般市民向けの公開講座
- 専門分野を基礎から学べる講習会
- 自身の専門知識を深める講座
- 時代にあったテーマの講演会



## グローバル化

世界各国の化学会と協調して情報発信を行っています。また、化学の世界で国際的なリーダーシップを発揮できる人材育成、研究推進を強力にサポートしています。

- Pacificchemの開催
- IUPACやFACSとの国際協調
- Nakanishi Prize (ACSとの連携)
- 二国間協定(台湾・英国・イスラエル)
- PCCP Prize (RSCとの連携)
- CS3など国際会議への参加



## 英文論文誌・出版

Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) と Chemistry Letters (CL) 2誌の英文論文誌を発行しています。2024年からはOxford University Press (OUP) と共同出版契約を締結し、出版業務を協業することになりました。また、機関誌や書籍などを通して社会の変化を捉えた最新の研究などの情報を提供しています。